

さんま通信

厚生中央病院 だより 第85号 

厚生中央病院の理念

1. 私たちは、心の通った温もりを感じる医療を目指します。
2. 私たちは、組合被保険者ならびに地域の人々の健康と福祉に貢献します。
3. 私たちは、病院機能の充実を図り、サービス向上のため日々研鑽します。



目次

- 着任のご挨拶 1
- 事務部長就任のご挨拶 2
- 新任医師のご挨拶 2~3
- 夏の足ケアで気をつけること 4



着任のご挨拶

整形外科部長 三部 順也
出身大学：東京医科大学 1986年卒



平素より連携医療機関の先生方には大変お世話になっており、心より御礼申し上げます。2026年4月より、厚生中央病院整形外科に着任した三部 順也（みべ じゅんや）と申します。

私は、東京医科大学整形外科からの人事で東京都立大塚病院に赴任し、長く大塚病院整形外科で勤務してまいりました。大塚病院では上肢・下肢のリウマチ手術に多く携わり、さらに専門性を生かして関節疾患治療センターを設立し、人工股関節置換術、人工膝関節置換術を中心に関節疾患治療に邁進してきました。人工股関節置換術に関しては2009年から前方アプローチによる筋肉を切らない低侵襲手術を導入し、術後の早期回復と日常生活に制限のない手術を心がけてきました。

厚生中央病院では、伝統のある人工関節センターをさらに発展させ、また関節リウマチの薬物療法、足の外科などの関節疾患の治療に専念し、先生方や地域に貢献したいと存じております。どうぞよろしくお願いいたします。



事務部長就任のご挨拶



事務部長
菅谷 和明

令和8年4月、厚生中央病院の設立母体である全国土木建築国民健康保険組合の人事異動により、事務部長として着任いたしました、菅谷和明と申します。

厚生中央病院での勤務は、医療連携広報室（当時）在籍時以来、11年ぶりとなります。ブランクも長く病院の機能や環境の変化に戸惑いを感じる場面もありますが、当時から面識のある職員も多く、職員に支えられ、変わらぬ温かい雰囲気になじみながら、日々業務に取り組んでおります。

当院は高齢化社会に対応した急性期多機能病院としての役割を果たすとともに、地域包括ケア病棟を活用し、近隣医療機関や介護・在宅分野との連携を大切にしています。また、全国土木建築国民健康保険組合の直営病院として、人間ドックなどを通じた被保険者の皆さまの健康づくりにも、より一層力を入れてまいります。

医療を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、医師・看護師をはじめ多職種が一丸となり、安定した質の高い医療の提供に努めています。今後も組合被保険者及び地域の皆さまに信頼され、貢献できる病院を目指して努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任医師のご挨拶



総合内科
橋本 将汰

出身大学 東京医科大学(2016年卒)

専門領域・資格 内科専門医、内分泌代謝・糖尿病内科専門医、糖尿病専門医

初めまして、今年から赴任となり、主に糖尿病内分泌領域の担当をしています。私の治療方針として、皆さんに納得してご自身の疾患に協力していただくことが一番と考えています。分からないことはどんどん聞いてください。



循環器内科
森 かおり

出身大学 獨協医科大学(2020年卒)

専門領域・資格 循環器内科一般

4月より赴任しました森と申します。地域の皆さまに安心して受診していただけるよう、丁寧な診療を心がけてまいります。どうぞよろしくお願い致します。



消化器内科 日原 大輔

出身大学 東邦大学(2010年卒)

専門領域・資格 消化器一般(消化管)、
日本消化器病学会 専門医・指導医、
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医、
日本内科学会 総合内科専門医

このたび着任いたしました日原大輔と申します。消化管領域を専門に、内視鏡診療を中心として診療にあたります。皆さまのお力になれるよう努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



小児科 森 健太郎

出身大学 東京医科大学(2017年卒)

専門領域・資格 小児科一般

4月に入職致しました森と申します。子どもたちとご家族に寄り添い、元気で安心な生活が送れるようにサポートさせていただきます。宜しくお願い致します。

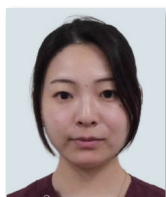


産婦人科 堀井 裕美

出身大学 東京女子医科大学(2012年卒)

専門領域・資格 産婦人科一般、産婦人科専門医、周産期専門医(母体・胎児)、
日本産科婦人科遺伝診療学会認定医(周産期)、
抗加齢学会専門医、医学博士

患者様が相談しやすい外来診療と安心で安全な周産期診療を心掛けたいと思います。多職種の皆様ともコミュニケーションを取りながら連携して診療にあたっております。宜しくお願いいたします。



呼吸器・乳腺外科 松本 望

出身大学 東京医科大学(2019年卒)

専門領域・資格 乳癌・乳腺疾患、外科専門医、マンモグラフィ読影認定医、乳房超音波読影認定医、医学博士

4月より赴任いたしました松本と申します。

乳癌・乳腺疾患の患者さまをご紹介いただく際は、どうぞお気軽にご相談ください。地域の先生方と連携し、患者さまとご家族に寄り添った診療を心がけてまいります。よろしくお願いいたします。



麻酔科 児嶋 良

出身大学 日本医科大学(2016年卒)

専門領域・資格 手術麻酔、麻酔科専門医、JBPO T

この度、4月入職しました。児嶋です。さいたま赤十字病院で、初期、後期研修医を経て、様々な病院で幅広く手術麻酔を経験しました。無痛分娩を含め、この病院に貢献したいと思います。

～夏の足ケアで気をつけること～

糖尿病看護認定看護師 大久保 直樹

夏を過ごすにあたり、足のトラブル防止ポイント5つを紹介致します。

①足の観察をしましょう。

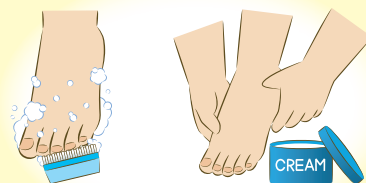
「足の裏・つま先」を見るのは簡単なようでなかなか難しいものです。寒い冬に分厚い靴やブーツを履いてきた足は傷つき、弱った状態で夏を迎えます。硬くなっているところや乾燥部位はありませんか？ 皆さんが毎日洗顔をするように、足もきれいに洗って観察をしましょう。

②保湿をしましょう。

皮膚をいい状態に保ち、菌から守るには保湿が必須です。しっかりと泡立てたボディーソープ(温水での足浴でも良いです)で足を洗いあげた後は、保湿クリームやワセリンを薄く塗りましょう。

③正しいお手入れをしましょう。

爪の両側の溝、爪の裏側には様々なゴミや水虫菌で臭いの原因になります。入浴の際にはやわらかい素材で爪の両脇や先端の裏側からゴミを掻きだすようにブラッシングしましょう。軽石で踵の角質をケアするのも大切ですが、擦り過ぎは禁物です。軽石使用時は力を入れ過ぎず、使用後は保湿剤やワセリンを薄く塗ってください。シャワー時に毎日1分お手入れするだけで日常の足の問題は予防できる事があります。



④汗対策

菌やカビ、水虫から足を守るためには、毎日同じ靴を履くのは避けて靴をドライに保ちましょう。

⑤夏らしい足元のおしゃれのためには ローカットソックスと正しい靴選び

裸足で靴を履くのは避けましょう。足は1日にコップ一杯分の汗をかくと言われています。汗で蒸れることで足に傷がつきやすくなり、匂いの元にもなります。夏でもローカットの靴下を履くことをお勧めします。また合わない靴を履いて靴の中で足の指が当たっていると、爪が変形したり変色したりしてしまいます。

当院では皮膚科外来で「爪切り・足ケア外来」を行っています。(詳細は右記参照▶)
足でお困りごとがありましたら、是非ご相談下さい。

爪切りでお悩みはありませんか？

ご家族や介護スタッフに
お願いができない

足まで手が届かない

爪が厚い、
変形している

目が見えなくて
爪が切れない など

そんなときは
『爪切り・足ケア外来』を
ご受診ください



診察日	月曜・火曜・木曜 (各時間帯1名) 9:40 / 10:00 / 10:20 / 10:40 (月・火曜のみ)	完全 予約制
料金	2,000円(税込) (自費診療 / 両足)	
ご予約	☎ 03-3716-8124 (外来予約センター) ※爪切り・足ケア外来とお伝えください (平日9:00～16:00)	



救急指定病院

厚生中央病院

さんま通信

No85 2026

発行元：総合病院 厚生中央病院 経営企画広報室

〒153-8581 東京都目黒区三田1-11-7
TEL : 03-3713-2141 FAX : 03-3713-4963
URL <https://www.kohseichuo.jp>

看護師等、随時募集しております。詳しくは当院ホームページをご覧ください。